

“対話する人間”

河合準雄 心理療法家

- * 子供の自立は十分なる愛を注いでスキンシップを経過しないと返って自立しない、又子離れもしない、いずれは親から去っていく時に悲しみを味わうのだから、せめて子育ての道中は子供と共に楽しむ事がお互いに後々の為になる。
- * アメリカ人は結婚を契約と考えている、例えば愛しているから結婚し、愛がなくなれば離婚する。
日本人は夫婦関係を縁と考えている、従ってそう簡単には離婚しない。
アメリカ人は子育てでも契約的な物の考え方をしているが日本人の子育ては契約的・自律的なものを求めてもナンセンス、親子・夫婦ともに「絆」を意識し、強めたり切断したりして深めつつ不思議な縁だな・・・相手の事をどこまで許せるか、許しつつ、どこまでつながっているか。
- * 悪の体験と心のエネルギー
柿盗びは、昔はごく普通のケースの子供の遊びとしてあったが今は人工的な物の中で遊び親は平気で大金を投じている、家庭教師・塾と当然のごとく行かせているが明らかに間違っている、日本の親にとって子供が悪きことをしてもそれを見ながら堪えることだ、塾通いを辞めて成績が落ちたりしたときに子供自らの力での克服を待つ為の心のエネルギーを使うのが本当の親の愛情である、これからの親は「何かをする」とかに対してではなく、むしろ「何かを、しない！」という愛情の為に心のエネルギーを使うべきである。
不登校の子供に対して夫婦が真剣に対決してこそ、真の対話が生まれ事態は解決に向かっていく、父親にとって難しいのは自分自身との対決であり子供にギリギリの本音を出して立ち向かうと、子供達もよくなることが多いにもかかわらず真剣に立ち向かわないでズルズル悪化させる。
- * 勉強は中学生・高校生からでよい、小学生は遊びが大切であらゆる創造活動の源泉でありプロ野球選手の体力作りに相当するものだ。
- * 人生後半の戦いとしての夫婦はお互いに似ている所が夫婦関係を維持してくれるし、お互いに違うところが夫婦関係を発展させてくれるものだ、ただそのどちらを強く意識するかで結果はよくも悪しくも・・・つまりよく解釈する事で夫婦関係は改善されていく、但し「中年以降の夫婦にとって対話する事がどんなに困難で、どんなにに大事業か」を認識する必要がある、その前提として自分のことを知ることが大切。
- * 「すること」と「あること」我々の社会はすることに重きを置き過ぎている、赤ちゃんも、おばあちゃんも存在するだけでよい。

“家族皆幸福” このバランスのあり方について

山田太一 「異人たちの夏」

- * 教育の現れ方～それは優れて人と人との関係に於いて成立するもの、そして人間の“個性”というものを抜きにしては考えられない。
 - * ある小学校での討議～祖母の時代にヤギを買っていてそれを売った・・・子供の反応は、可哀そう・けしからん、の聲が頭から出ての発言で盛り上がった。先生の発言「売られていくヤギを見て可愛がっていた少女は何を思っただろうね・・・」発言は無くなったが、ヤギも可哀そうだけどヤギを売らなければいけない事の方がもっと可哀そうだと思うと発言した子供の声は腹から出ていた、活発でも明快でもないが皆に深く考えさせる発言であった。
 - * ある愛育養護学校の授業のビデオでは子供たち一人一人の個性が尊重されるという点で、これだけ徹底した学校は他にない、一人一人の子供の動きに、その子供の個性が輝いて見える、そして的確に学習している。
 - * 人を信頼する・・・ある教室でのケンカ・・・A君がB君を泣かした、両君の動きと、それを見ていたC子さんの「駄目じゃないA君・・・」その発言に対するA君の反応“チョット反省の感じ”先生がそうした動きをよく見ている先生とA君の目が合った・・・微笑みを交わす・・・
人が人を信頼する事はエネルギーがいる、何かを発言したり行動するのではなく、心のエネルギーを使うことの大切さ・・・
 - * 心の為にお金を使おう・・・登校拒否や家庭内暴力の子供達が安心して心も体ものびのびとできる施設、十分食べ、十分休み、好きなように時間を過ごせるそれが理想の施設だ。
人はだれしも自分の生き方を正し、より成長していこうとする潜在能力を持っている、それにふさわしい施設が今、必要とされている。
 - * 少数精鋭の理想と現実～役に立たないと思っている人間が意外な事で役に立っている・・・適数適鋭で上手くいく、但し最初からそれを狙うと集団に必要な緊張感が低下して多数怠慢となるのでメンバーに磨きをかける仕掛け、も必要である。
 - * 驚くうちは楽しみがある～夏目漱石の虞美人草の中の一句～
毎日の生活の中で驚く事を如何に多く見つけるかで楽しみが多い人生となる
 - * 夏目漱石の弟子として随筆の名手寺田虎彦は「**いわゆる頭のいい人は云わば足の速い旅人の様なものである、その反面、途中の道端に、或いは、チョットしたわき道にある肝心なものを見落とす恐れがある**」・・・
- 「遅れの神」の意味を感じる、ジックリ人生も大切、ウサギと亀、長息・・・

「嵐の中の生き甲斐」

城山三郎 角川春樹事務所

*友人S君の告別式でH君と共にもっと彼と話しておくんだっとなあ・・・
慶弔積立金もいるが、もっと友人にまつわる良い思い出、をお互いにもっと
積み立てておきたい、結果はともかくあるべき姿を求めて、如何に悩み、如何
に深く生きたか、いかに爽やかに、いかに優しく生きたか、良い付き合いとは
何か？・・・問いは果てしない・・・

* 渋沢栄一の生きざま

- ① 吸収魔
- ② 建白魔
- ③ 結合魔

人と人のその晩年に至るまで目の前にいる人に心の全てを傾けて対応した。

* 魅力を感じる人の条件

- ① 何時もあるべき姿を求めている
- ② 常に生き生きしている
- ③ 卑しくない事

* 老子の言葉「金持ちの国は益々忙しくなってただ働いただけじゃないか・・・
新しい知識が生まれれば生まれる程、人が忙しくなるなんて皮肉じゃないか、
それに様々な法律や税法が細かくなればなる程、その網の目を潜り抜ける悪党
たちの数は増えるばかりなんだよ」～これが2500年前の言葉とは・・・
まるで日本の命運をそっくりそのまま予言している。

但し希望は「だからこの大きな世界が鎮まるには人々が出来ただけ相手の自由
を尊重するしかないんだ、静かさを愛するようになれば自然にそこから豊かさ
が・・・繁栄が生まれてくるんだ！！」

この日 この空 この私

城山三郎

*体調不良・体重減で精密検査を受けたところ若い医師から癌を宣告された
生きている、その事だけで人間は十分幸福！！ それなのに何故俺だけが！
と無性に悔しく、情けなく、腹立たしかった。

幸いその後1週間に亘る検診の最終結果は誤診で私は命拾いした、それ以降
何でもない1日も又、というより、その1日こそが、かけがえのない人生の
1日であり、その1日以外に人生はないと強く思うようになった、明日の事
等考えず、今日一日を生きている私を大切にしよう！！・・・と

人生の持ち時間は、誰にとっても大差はない、問題はいかに深く生きるか
である・・・どれほど深く生きた記憶をどれ程、持つかで、その人の人生は豊
かになる、その為に、あえて挑戦するとか、打って出ることも肝要となろう